＜令和７年度＞　とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	墨田区横川さくら保育園
施設所在地	墨田区横川 5-9-1
法人名	社会福祉法人希望福祉会

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

野菜の栽培と食育
(トマト・きゅうり・なす・オクラ・パプリカ・大葉)

＜テーマの設定理由＞

　野菜の栽培活動を通して、身近な植物に親しみ、植物の面白さや不思議さに触れ、より食の大切さ、楽しさを感じられるようにするため。

２．活動スケジュール

２歳児１８名。
５月８日→土作り
５月１３日→苗植え　①
７月８、１０、１７日→観察、収穫
７月１８日→味わう　②

３．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり　等を記載ください。

【環境設定・素材・道具】
土、肥料、プランター、野菜の苗、じょうろ、シャベル、支柱、図鑑、虫眼鏡、ホース

【活動の様子】①土づくり、苗植え
給食を食べている時に、子どもたちが知っている野菜の名前を言ったり、子どもたちに馴染みのない野菜の名前を知りたがる姿が見られていた。導入として、栽培活動を始める前に、日頃から給食で目にしたり、口にしたりする、子どもたちの知っている野菜の写真を用意し、野菜クイズをしたり、育てる野菜への興味関心を高めた。やりたい気持ちが膨らんだところで、子どもたちと共に、プランターの土作り（肥料混ぜ）、苗植え、水やりをしながら、給食によく出る野菜の成長を観察した。

【活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり】
野菜の写真を見ると、子どもたちの方から「きゅうり」「にんじん」等と、野菜の名前を答える姿が見られた。保育士が「これからみんなで野菜を育てるために、野菜のお家（プランター）の準備をしよう。」と話しをすると、「どうやってやるの？」「早くやりたい」等と、楽しみにしている様子が見られた。実際に園庭に出て、プランター内の土に肥料を入れ混ぜると、「気持ちいい」「冷たいね」「ふわふわだ」と、土の感触を楽しみながら土作りをする姿が見られた。
その後、土作りをしたプランターに苗を入れると、「トマトのお家だね」「おおきくなれ」「おいしくなれ」と言いながら、土をかけ、成長を楽しみにしている姿が見られた。日々、子どもたちと共に、野菜の観察を行うと、「大きくなったね」「（なっている実を見て）もう取ってもいい？」等と、野菜の成長に興味を持っている様子が見られた。

【導入：野菜の名前クイズ】

【土作りの話を聞いている】

【土に肥料を入れ混ぜている】

【これから植える苗を見ている】

【苗植え】

【水やり】

4．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・２歳児クラスになり、様々な食べ物の名前を覚えて、給食時に「これなに？」と興味を持っている様子が見られた。実際に、野菜を自分たちで育ててみると、より関心を持ち、育てたり、成長する様子を楽しみにする姿が見られた。子どもたちの興味関心に沿う保育の大切さを再確認することが出来た。

・自分たちで土作りから始めることで、子どもたちも「野菜どうなったかな？」「見てみよう。」「いつ食べられる？」等と、野菜の成長を楽しみにする様子が見られた。

・栽培活動時には、野菜の観察や、水やりを取り入れていたが、栽培活動時間以外にも、子どもたちから野菜の状況を気にする様子が見られた。夏季は、暑さ指数が高く、戸外に出られないということがあり、その中でも、子どもたちから芽生えた興味関心を大切にしていく為に、野菜の図鑑等を用意し、野菜への興味を深めていく環境を大切にしていくことが出来た。

【活動の様子】②収穫、観察、試食

実った野菜をみんなで収穫し、野菜の茎、葉、実を室内に持って行き、虫眼鏡を使用し、観察をしながら、発見を楽しんだ。その後、栄養士に調理してもらった野菜を試食した。

【活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり】

日々野菜の観察をしていく中で、実ができると「トマトまだ緑だね」「きゅうりは、ながいね」「チクチクしてるね」と言う姿が見られた。また、枯れてしまう野菜があると、「どうして枯れた？」等、子どもたちから疑問の声が聞かれたので、枯れた原因を子どもたちと一緒に考え、「夏は、暑すぎて、ずっとお外にいる野菜は元気がなくなる」「夏は暑いから、お水がすぐになくなって大きくなれない」等と、枯れた理由に触れることが出来た。

収穫に行くと、「トマトが赤になっている」「もう取っていい？」と嬉しそうに、みんなで収穫をしていた。匂いを嗅いだり、柔らかさ・固さ等感触を楽しんでいる姿が見られた。

野菜の茎や葉、実は、室内に持って行き、虫眼鏡で観察すると、初めて使う虫眼鏡に興味深々で、「こう？」「あってる？」と、保育士に使い方を確認しながら、真剣に野菜の観察をしていた。観察中には、初めて使う虫眼鏡に集中しすぎて、無言のまま見ている姿があったので、保育士が声をかけることで、「おおきいね」「毛がいっぱいあるね」と言う声が聞かれた。

収穫した後の野菜は、栄養士に調理をしてもらい、食した。切った断面を見ると「トマトは赤いね」「ナスは白いね」と不思議そうに見ていた。その後、実際に味わってみると「おいしい」「(トマト) すっぱーい」「(大葉) にがい」「(トマトの皮が) 固い」と言いながら食べる姿が見られた。自分たちで育てた野菜は、格別美味しかったようで、喜んで食べていた。

【トマトの収穫】

【葉っぱの匂いを嗅ぐ】

【トマトの実の匂いを嗅ぐ】

【虫眼鏡で観察】

【収穫してきたものを試食】

4．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・自分たちで育てた野菜が、どんどん大きくなり、実ができ食べるという経験はなかなかできないので、子どもたちはとても嬉しそうにする姿が見られた。
・自分たちが大事に育てたことで、野菜に興味を示したり、１口だけでも食べてみようとする姿が見られ、食育活動にも繋がったように感じた。
・普段給食では調理されて出てくる野菜を、今回は収穫後そのものの味を感じることができ、野菜の色をじっくりと観察したり、食べる前に匂いを嗅いだり、実際に触れたりと、五感を使って味わう経験が出来た。
・今回は、「野菜の栽培」を通して、保育士や友だちと一緒に同じ体験をし、保育士とテーマに添って一つ一つイメージし、子どもなりに表現する姿があった。また、保育士や友だちと一緒に活動をする楽しさや喜びを味わうことが出来た。
・園長、副園長、栄養士、担任での話し合いの場を設けることは心掛けていたが、全職員に共有する場を設ける時間が少なかったので、決まった職員だけでなく、園全体で取り組む大切さを再認識し、今後の課題とする。